

小網代の森と干潟を守る会  
**小網代 森と干潟つうしん**

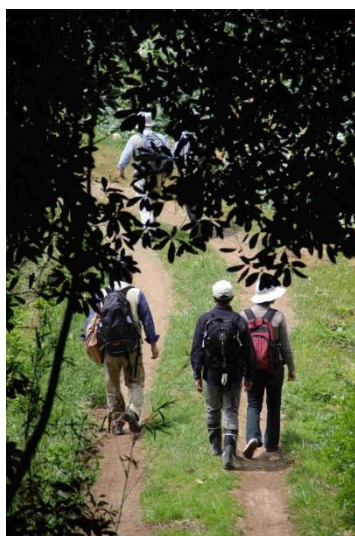


モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ  
小網代の森と干潟を守る会  
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5  
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com  
TEL.046-889-0067 (仲澤)  
URL: http://www.koajiro-higata.com  
年会費：一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月～6月)  
郵便振替： 00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会

## 第 114 回自然観察 & クリーン

### “新緑の小網代の谷をながめて”



2013 年ゴールデンウィーク前半最終日の 4 月 29 日(昭和の日)。三崎口駅には数多くの行楽客が見受けられます。今回の参加者は小学生 2 名を含む 10 名(初参加 6 名)およびスタッフ 13 名。定刻に混雑する駅前を出発し、引橋から南側の分水界を歩き干潟にいたるコースを歩きました。

国道 134 号を歩きながら相模湾を見渡すと遠方にうっすらと丹沢、箱根、富士山を、後方には大楠山、武山、三浦富士など三浦半島の山々も見る事ができました。尾根の上を走る国道からは三浦半島南部の地形の成り立ちをよく観察することができます。国道わきからすぐに急な崖があり深く複雑な谷をいくつも刻んでいます。一種の溺れ谷のようなものでしょうか。地形図を見ながら歩けば面白さも数倍ましたかもしれません。引橋の交差点で国道はギュッと折れて三浦海岸へ尾根を下っていきます。その尾根が相

模湾と東京湾の分水界で引橋を頂点とし、西に流れ、相模湾へそそぎこむ谷が小網代の谷というわけですね。引橋からは小網代の谷を見渡すことができます。新緑に包まれた小網代の谷。さまざまな緑が目飛び込んできます。一番多いのはコナラの緑。黄色い新葉をふきだしたスダジイ。白い花を上に向けて開くミズキ。その中にところどころフジの紫が見られます。新緑の時期はいいですね。引橋では道路から樹木の上方が目線で楽しめるのもポイントです。シロダモの出たての新葉に触れるとなんと気持ちのいいことか。カラスザンショウの葉を見て「美味しそう」という参加者。目の前のフジの花からは甘くよい香りがしました。しばらくは住宅地の中を歩きますが、道端にはフウロソウ科の帰化植物(アメリカフウロ?)やナガミヒナゲシなどが多くみられ、かつて多くみられたオオイヌノフグリやヒメオドリコソウなどは





ほとんどと言っていいほど見られなくなっていました。宮前の峠へ下りる手前でジャコウアゲハ、モンキアゲハ、アオスジアゲハなどが飛来し、目を楽しませてくれました。峠ではいつものようにアカテガニ団地の観察。まだ、動きはあまり見られません。例年ゴールデンウィークには動き始めるので、ここ数日で動きはじめるでしょう。アカテガニ団地の周りで見られるウラシマソウはすでに花は終わってました。小網代湾の干潟は春の大潮で大きく引いており、チゴガニのダンス、ヤマトオサガニ、コメツキガニ、濡筋にはマメコブシガニが見られました。また、十数羽のチュウシャクシギ？がお食事の最中でした。

昼食後は浜辺の掃除を行い、ほとんどゴミのないきれいな状態となり、初夏のような汗ばむ陽気でしたが、参加者からは笑顔がこぼれていました。帰り道は新しく開設された北尾根の階段を息をハアハアと切らせながら一気に上りつめ帰途につきました。

どの花も例年より1週間以上早いようですが、昆虫その他の動物は例年と変わらないような気がします。この春の寒暖の差の大きさが問題と考えられますが、地球温暖化も一因でしょうか。

(文・矢部和弘 写真・松下景太)

※ 観察会は NPO 法人小網代野外活動調整会議と共催で実施し、アカテガニ広場や倉庫を使わせていただきました。

## 参加者のメッセージ

歩いてよかった。天気も良く楽しかったです。  
柿島 淳

楽しかったです。オープン楽しみにしています。  
足立 守

白髭みちへ下る途中の農道で、若い青年風の「シマヘビ」と出会いました。初見です。懸崖のような、藤の花が見事でした。  
S記

久しぶりに参加した観察会でした。コースもおもしろくて藤の花やいろいろ新しい花や木に出会えて最高でした。  
柿島京子

植物や生き物を立ち止まってじっくり見ることは、ここ何年もありませんでした。本当に来て良かったです。ありがとうございました。  
足立文子

森のまわりの道路ぞいにもきれいな花が咲いていましたが、分からないのが悔しかったです。帰化植物と思いますが、調べたいと思います。  
まわりの緑が美しい観察会でした。講師の矢部さんありがとうございます。  
須田

ひがたで、カニを見れて楽しかった。また来たい。  
H.N しほ

初めてきました。また観察会に参加しようと思います。  
H.N ちえこ

神奈川の自然を大切に守って下さい。今日はありがとうございました。  
菅井

2回目の参加、三浦に住んでいるがなかなか来る事が出来ず年に一回のこの行事楽しみにしています。  
森山

随想 小網代でんてん⑥

雨の日ー小網代の森で

須田漢一

昨日からの雨は、朝になっても止まない。

予定されていたイベントは中止になった。スタッフ、明日千葉県から訪れるグループ案内の下見に行くというので、同行させてもらった。

いつもは静かに流れている浦の川は、水量が増え、いまは音をたてて流れている。周りの落葉樹は眠っているように見えるが、幹を叩く雨の音や、新芽を着けた枝が滴りを跳ね返す音で、森が目覚めているのを感じる。

地表に落ちた雨や上流部から集まった水は、まんなか広場の平坦地で網目状に広がり勝手次第に流れている。谷の斜面に生えている草や木の間から、棒状の滴りが切れ目なく川に注ぐ。その山腹に掘られた穴の中にはアカタガニは、冬眠中なのだろうか、見えない。茎を傾けたセキシヨウやカモジグサやアスカイノデは、土を確りと掴んで流れに耐えている。そうした表土を覆う草々が、腐植土層や立ち木の根と共に、土が流れるのを止めている。かって田んぼだったところの名残りだろうか、広場には小さな池が何ヶ所か現わ

れ、水が一気に流れるのを押さえてくれる。この地を耕作していた人たちの遺産と自然が作り出した営みに驚くと同時に、全てのものが尊く貴重なものに思えてくる。

浦の川は、高さ80メートルほどの引橋あたるの源流域から河口まで、約1.2キロといわれる緩やかな流れが、干潟を経て小網代湾に入っていく。その過程で、森の中の腐植土層を通ってきた有機物を含んだ水は、干潟に生えるヨシ類の根と、そこに暮らす微小な生物や細菌類による分解作業で浄化されているのだ、と聞く。そのどれか一つが外れても壊れてしまう微妙な仕組みは、経済をうんぬんする人間の力ではつukれないだろう。

世界史で土に焦点を当てると、古代ギリシヤ、ローマ、メソポタミアなど、過去、幾つかの文明は森（森林）の中から生まれ、森の衰退とともに滅亡していった。森は文明の母であり、自然の中でも筆頭格に当たる。森の豊かさとは、土壌の生命力の豊かさであり、人が少しばかり木を払っても緑を回復させる強さがある。その反面、敏感さをも示す。例えば、山の斜面や川の護岸をコンクリートで固めると、そこからバランスが崩れ、生きものは激減し、山腹や森の表土は流れ、粘土を

含んだ水が干潟や海の底を泥質化して、エビやカニや貝類、魚類、海岸動物の住み処を壊し、海藻や海藻の生育を阻害し食物連鎖を断ち切る。それはまた、小網代の森の天蓋種、アカテガニの住む処を奪うことにもなる。

そんなことは起きる筈はないと思うが、自然に対する半世紀以上にわたる人間の行為によってもたらされた現在の姿を見ると、心しておいても遅くはない。

森の中の川を守るには、水が滞りなく流れることが大切だといわれる。里山風の明るい景観を持続させていくのには、人が絶えず森の中に光を入れ、下草を大事にし、腐植土層を維持していけば、森と川と干潟はいつまでも生きた姿を見せてくれるに違いない。

雨はいつの間にか止んでいた。

(2012.3/10 歩く)





## 干潟の雑学 (7)

### 小網代干潟の大きなヤドカリ、コブヨコバサミ

小網代の干潟の周辺で暮らすヤドカリの仲間は7種くらいです。

ヤドカリの仲間の中で小さなハサミを持ち、ハサミを水平に開閉するのがヤドカリ科のヒメヨコバサミ属とヨコバサミ属です。小網代の干潟にはヒメヨコバサミ属のヤドカリが2種類(ケブカヒメヨコバサミ *Paguristes ortmanni* Miyake 1978、ブチヒメヨコバサミ *Paguristes japonicus* Miyake, 1961) とヨコバサミ属のヤドカリが2種類(イソヨコバサミ (*Clibanarius virescens* (Krauss, 1843))、コブヨコバサミ) 暮らしています。小網代の干潟に暮らすヤドカリの中で一番大きいのがコブヨコバサミ (*Clibanarius infraspinus* Hilgendorf, 1869) です。コブヨコバサミという名前はハサミ脚の長節の基部にこぶ状の突起が一つあることから名づけられたようです。コブヨコバサミはインド洋、オーストラリア、東南アジアから日本までとても広い地域に分布しています。コブヨコバサミの仲間、*Clibanarius* 属は、熱帯域と暖かい温帯域を中心に世界的に59種く

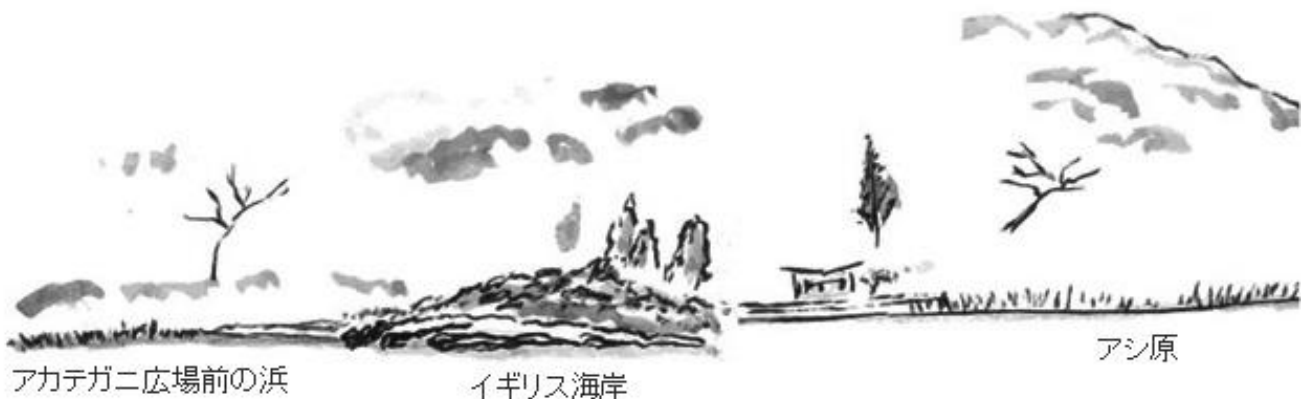


コブヨコバサミ



らいがサンゴ礁海岸や岩礁海岸あるいは河口の干潟などに暮らしています。日本とその近海で見られるコブヨコバサミの仲間は暖かい海域のサンゴ礁や干潟の潮間帯、亜潮間帯を中心に多く見られ、甲殻類図鑑を見ると12種類が載っています。しかし分類はかなり混乱しているようでまだ名前が変わるかもしれません。ヨコバサミの仲間のヤドカリのハサミは左右ほぼ同じ大きさですがオスでは右のハサミが大きい種が大半で、特に大型の個体では顕著のようです。また、この仲間は「長指型」と「短指型」の種があるようで、「長指型」は歩脚が細長く大型の種が多く含まれ、「短指型」は歩脚の指節が前節より短く小型の種が多いようです。

が前節より短く小型の種が多いようです。



日本ではコブヨコバサミと呼ばれていますが、外国では歩脚にオレンジ色の縦のラインがあるのでストライプトハーミットクラブと呼ばれるようです。小網代のコブヨコバサミが利用する貝殻はアカニシ、ナガニシ、ツメタガイ、サザエ、ヤツシロガイですが、小さな個体はホソウミニナやイボニシ、ヒメヨウラクなども利用しています。日本のコブヨコバサミと同じ仲間のアメリカのコブヨコバサミ (*Clibanarius vittatus* Bosc,(1802)) はアメリカ大陸の大西洋沿岸のバージニアからブラジルまで非常に広い範囲にわたって干潟を中心に暮らしており、アメリカでは脚に白いスジがあるのでアメリカのコブヨコバサミもストライプトハーミットクラブと呼ばれているようです。



コブヨコバサミの歩脚  
オレンジ色の縦のライン

ヤドカリが利用する貝殻の好みについてコブヨコバサミ (*Clibanarius infraspinus*) を観察して調べた研究があります。ヤドカリは通常体に丁度合った貝殻を利用します。しかし丁度よい貝殻が見つからないときには少し小さめだったり、大きめの貝殻を利用しています。そこで、

その1：コブヨコバサミを野外で集められた貝殻のある状態、

その2：小さすぎる貝殻での状態、

その3：大きすぎる貝殻での状態、

その4：過剰の貝殻のある状態、

の4つの状態で飼育しました。

このあとヤドカリに自由に好みの貝殻を選択させると、小さすぎる貝殻に制限されたヤドカリは他の状態のヤドカリよりも小さな貝殻を選択しました。しかし、大きすぎる貝殻を利用するヤドカリや自由に貝殻を選べるヤドカリは貝殻の選択に変わりありませんでした。このようなことからヤドカリの貝殻の好みは最近の経験や過去の経験までに依存しているようです。ヤドカリも小さな家に暮らしていると大きな家では何となく落ち着かなくなるのでしょうか。



アメリカのコブヨコバサミ (*Clibanarius vittatus*) では季節移動などさまざまなことが調べられています。

フォスリングム先生の研究によるとテキサス州 (ガルベトン湾?) のアメリカコブヨコバサミは大きなオスが夏から海岸を離れ深い場所に移動をはじめ小さなメスは晩秋に移動して春に再び海岸に戻るようです。

サンドフォード先生の研究によるとフロリダのドックアイランドではアメリカのコブヨコバサミは夏には海岸のヤドカリの優先種であるが冬期にはほとんど見られないとあります。そして夏季には多くの個体が陸上で見られ、何日間も陸上にいることができるようです。

ローリー先生とネルソン先生の研究によるとフロリダでは晩秋に深い場所に移住し4月に海岸に戻ってくるとあります。しかし、メスと小さなオスはそのまま海岸に残っているようです。そしてフロリダのアメリカコブヨコバサミ (*Clibanarius vittatus*) は海藻のエリアでは端脚類、タナイス類、ヒモ形動物などを食べ、砂地のエリアでは多毛類、等脚類を食べています。また干潟のスカベンジャーとしてバイオターベーション (生物攪乱) を起こし、他の底生動物相に影響を与えているとあります。



小網代の干潟のコブヨコバサミは春から夏に干潟の上の方でも大きな個体がたくさん見られます。しかし、寒い冬には潮が大きく引いたときでも干潟の下の方の水中でわずかに出会えるだけです。このようなことから小網代のコブヨコバサミもアメリカのコブヨコバサミと同じように寒い冬季には深い場所に移住して暖かい春が来るのを待つようです。

ストライプトハーミットクラブ (*Clibanarius vittatus*) と同じように縞模様のあるヤドカリとかオレンジ色の脚のヤドカリとして知られているヤドカリがハロウィーン ヤドカリ (*Ciliopagurus strigatus* (Herbst, 1804) ; 日本名ベニワモンヤドカリ) です。このヤドカリはアクアリウムを楽しむ人に人気があります。ハロウィーンヤドカリは沖縄やハワイ、インドネシアなどサンゴ礁のリーフの周りで見られます。小網代干潟のコブヨコバサミもカボチャの産地三浦にちなんで小網代ハロウィーンヤドカリとしては・・・。

#### 参考資料：

朝倉彰先生の研究 (2005), 原色日本大型甲殻類図鑑 (1) 三宅貞祥 著、保育社、1982,  
ブライアン ハーツレット先生の研究 (1996), ニック フォスリングム先生の研究 (1975),  
フロイド サンドフォード先生の研究 (2003),  
ウエンディー エー ローリー先生とワルター ネルソン先生の研究 (1988)  
大澤先生の研究 (2009)

小倉 雅實

\* カニや貝と遊び、大きなヤドカリと出会って、みんなでつくる干潟の水族館！  
小倉さんが案内する干潟の観察会は6月15日 (土) 10:00 三崎口駅前集合

みずたまり

中井 由実

雨粒を集め  
谷をつたう細い流れを集めて  
そこにはいつも  
みずたまりがある

のっぺりした水に近づいたとき  
りろ、と  
動くところがあるのに気づいた  
のぞきこむと  
りろりと 尾をゆらす  
小さなおたまじゃくしがいた

後から来た人が隣に立ち  
水底に気づいて目を細める  
次々にやってきて  
池をのぞいていく人達がふえるたび  
水面に映る笑顔が  
尾をふりながら泳ぐ  
おたまじゃくしになる  
りろ りろり



みどりの花

中井 由実

今年は花春が早く来てしまったから  
四月の観察会なのに  
毎年の花たちは終わってしまった  
初夏にむかい春を継ぐ  
ハルジオンばかり

けれど 今日

みどりの日

小網代はとりどりの緑色をちりばめている  
あちらこちらにコナラの芽吹き、薄緑  
イヌビワのまあるい若実  
アカメガシワの若い葉が紅をそえる  
ほら、ハゼの木のつややかな新芽が  
黄色い花に見えるわね

お話この詩は仲さんが描いた挿絵を見て書いたものです。人のいる所に寄って  
くる、不思議なおたまじゃくしの群れ。見ていると皆笑顔になってきます。その  
独特の泳ぎを表す言葉はこの絵が教えてくれました。水の中で振る小さな  
鈴の音のようなりろりです。



## 動かないフジツボは世界のあちこちで・・・

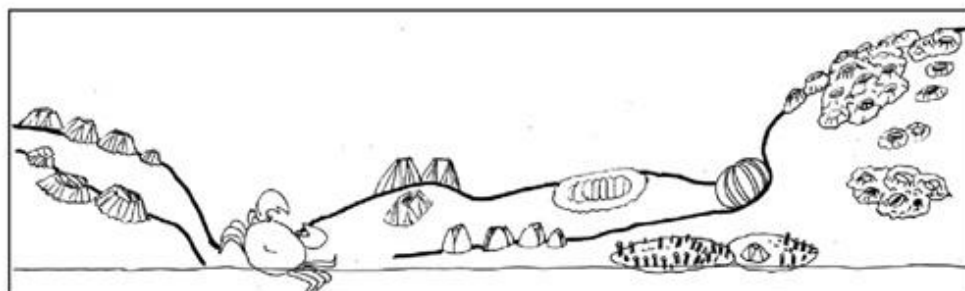


ジボーリン菜穂子

小網代の森と干潟がある三浦半島が、風光明媚で美味しいものありの、魅力満載なのは、言うまでもないですが、お隣の横須賀市も楽しいところです。三浦同様に、少し歩くとすぐ海です。すてき。先だって、汐入で会合のあった帰り、ノブ会長たちと港まで歩き、記念艦三笠を見学してまいりました。近くにあると、ついその良さを見落としがちなのは、よくあることですが、記念艦三笠は、イギリス海軍のヴィクトリー、アメリカ海軍のコンステーションと並び、世界三大名艦のひとつなのですね。<sup>(注1)</sup> そうだったのか。三笠率いる艦隊が日本海で、世界最大の軍事力を有していたロシア帝国のバルチック艦隊に対して、勝利を収めたわけですね。指揮官、東郷平八郎大将の何とも勇気あふれ、常識の枠にとらわれない作戦が成功したのです。明治 38 年。1905 年のことです。『吾が輩は猫である』の新聞連載が始まった年です。ロシアでは、第一次ロシア革命が起こっていました。その前の年にはチェーホフの『桜の園』がモスクワ芸術座で初演されています。フランスでは、ドビュッシーが管弦楽「海」を発表。その表紙が、例の北斎の富嶽三十六景の「神奈川沖浪裏」でした。ジャポニスムですね。

ところで、東郷平八郎は、世界三大提督のひとりですし、この日本海海戦も、世界三大海戦のひとつです。<sup>(注2)</sup> 学校では現代史どころか、幕末や江戸時代さえ教えないと伺います。なんともつまらないこと。外国の学校では、現代史から逆に、歴史をさかのぼって教えるところもあるそうですよ。因果関係が手にとるようにわかって、楽しいでしょうね。歴史をいろいろな視点から見る練習もできますしね。司馬遼太郎の『坂の上の雲』は、ちょうどこの頃、日本の近代国家黎明期を生き抜いた青年を描いています。「坂の上の雲」は、坂を上って行けば、まるで届くかに見えますよね。国家のあり方が自身の生き方と重なっていた当時の青年にとって、列強であること、近代国家となること、というのはこの雲のようだ、という少しばかり切ないタイトル。後半で、日本海海戦に突入します。ここで、繰り返し出てくるのが、船についたかきが船足を遅くする、という描写です。この「かき」というのは、船の用語で、「フジツボ」のことなのだそうですね。

今回も。前置きが長くなりまして、あいすみません。バルチック艦隊はバルト海を出発し、喜望峯を回ってくる隊とスエズ運河隊との二手に分かれて日本を目指してきたわけですが、何しろ時間がかかる。出発したのは、海戦の前の年のことですから。その間に、水線を中心に喫水下にフジツボが溜まりまくります。フジツボを取り除くには、ドックに入って、しっ





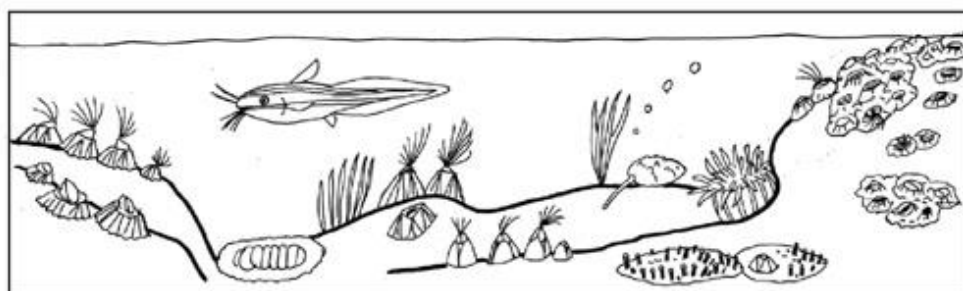
かり掃除をしなくてははいけないそうですから。フジツボがびちびちに船底についている状態ですと、2-3ノットくらい速度が落ちてしまうそうですよ。<sup>(注3)</sup> こういうことも、東郷平八郎はしっかりと考えの中に入れていたのですね。敵艦に三笠の横っ腹を見せるといふ大胆な作戦も、丁寧な知識あってこそなのですね。あるいは、フジツボが日露戦争の勝利のひとつの要素、つまりヒーローとも(!?)

フジツボがついてしまうと、効率が悪いですから、造船テクノロジー側としては、もちろん、フジツボがつきにくい塗料を開発するわけです。しかし、この塗料は環境に良くないことがわかりました。海の生きもの、特に貝類がメスばかりになってしまったそうなのです。それで、国際条約で、今では、その塗料の使用は禁止されています。でも、日本の造船業界はその国際条約のずっと前から、その塗料の危険性に気づき、禁止していたそうですよ。日本て、環境先進国なのです。あらすてき。もっと宣伝したらよいのに。環境ジャポニズムですね。

フジツボは、貝の仲間だと考えがちですが、カニやエビと同じ、甲殻類です。その証拠の脱皮殻を、干潟でも、見つけることができます。フジツボの上品さ、可愛らしさをこよなく愛していらっしゃる倉谷うららさんは、水面をふわりと優雅に漂うこの脱皮殻を「天女の羽衣」と呼んでいらっしゃいますね。(うららさんの、海とフジツボへの愛に満ちた『フジツボ 魅惑の足まねき』はオススメ!) 熊手のようにも見えますし、誇らしげなしっぽのようでもあり、うららさんのご指摘のように、天女の羽衣のようでもあります。甲殻類とはいえ、フジツボは、岩や船などにくっついてしまい、一生、その場所をうごかない生活を送ります。殻の中から、熊手のような形をした蔓脚(まんきやく)を蔓のように伸ばし、プランクトンなどを捕食します。

生まれたての幼生は、ノープリオスと呼ばれます。殻から海に向かって放たれ、自由に海を泳ぎます。そして、キプロス幼生に変態し、終の住処となりそうな場所を探します。場所が見つかり、接着剤のようなものを出し、そこに一生定住します。動けなくなるわけですから、将来パートナーとも出会える場所を見込んで探さなくてはなりません。定着した後、熊手のうちのひとつを長く伸ばして愛を育むのです。フジツボのこういうライフスタイルを見つけて発表したのは、ジョン・ヴォーガン・トンプソンという動物学者。19世紀初頭のことで、それぞれの幼生をノープリオス、キプリスと名付けました。

ノープリウス、あるいはノウプリオス(Ναύπλιος)は、ギリシャの男の子の名前。冒険家、危険を賭して海に繰り出す船乗り、という意味だそうです。ギリシャ神話にも出てきます。海の神ポゼイドンの子供です。トンプソンはイギリス北部の植物や、鳥に関する本を出しているほか、イギリス海軍の西インド諸島行きの船に外科医として乗船し、その間、陸にいるカニをしっかりと観察し、海岸において、放仔することを初めて説明した、と言われています。ちなみにカニの幼生にゾエアと名付けたのは、フランスのルイ・オーガスティン・ギョーム・バスク(「バスク」は、カタロニア語で「森」の意味だそうです)。19世紀になったばかりの頃です。この頃、フランスを中心に博物学が非常に発達したのですね。



フジツボは、中国でも「藤壺」。殻が籐でできた壺みたいだったからでしょうか。うららさんによれば、クロフジツボの殻が、まさに籐製品の籠。本当に似ている！殻の見た目が富士山のようなので「富士壺」と当て字をすることもあるそうですね。

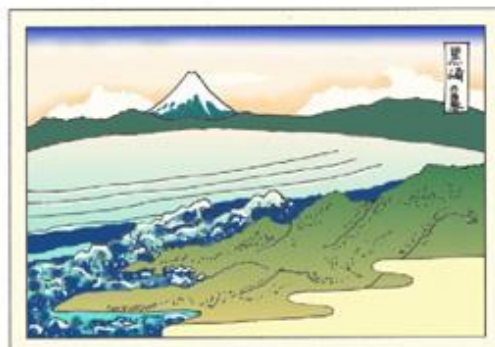
さて、「藤壺」といえば、『源氏物語』に登場するお姫様。桐壺帝に入内した藤壺中宮と合わせて、三人出ていらっしゃいます。こちらの「藤壺」は、お住まいの「飛香社」のお庭に藤が植わっていて、そのお住まいを「藤壺」と呼んでいたからだそうです。京都御所の建礼門を入りますと、右手に左近の桜、左手に右近の橘、そして、紫宸殿。そこから左に行くと清涼殿があり、さらにその奥に、この飛香社、つまり藤壺があります。藤壺の中宮が、桐壺帝に見初められたのも、帝の第二子である光源氏が三歳のときに亡くなられた桐壺の更衣の面影があったから。この桐壺もまた、お住まいの「淑景舎」のお庭に桐が生えていたから、ということになっています。この淑景舎は、天皇がお住まいになっている清涼殿からは、紫宸殿をはさんで、奥のまた奥になり、たいへん不便な場所にあります。桐壺帝のお名前は、この桐壺の更衣を寵愛なさっていたことから。たいへん理想的な君子として描かれています。もちろん架空の人物です。

18世紀末から19世紀のフランスの博物学の隆盛には目を見張るものがありますが、同じ頃の日本、つまり江戸も負けていません。さまざまな博物関係の書物が出板されています。たとえば、毛利梅園(1798-1851)。『梅園草木花譜』『梅園魚譜』など、すばらしい実写スケッチを残しています。また、遊び心も満載で、貝に介の文字を使った『梅園介譜』では、『源氏物語』五十四帖を貝にたとえたりしています。すてきな絵付きです。そのなかにもフジツボがありますよ。第十四帖の「溼標」にはカメノテ、第十六帖の「閑屋」はクロフジツボです。第十五帖の「蓬生」にはフジツボとあるのですが、うららさんの同定では、くじらにつくオニフジツボのことだそうです。

英語では、フジツボはバーナクル(Barnacle)。そしてアメリカでバーナクルといえば、「船乗りのバーナクル・ビル」と答えるのは、世代が上の方。お若い方たちにとっては、NHK や BS フジでも放映されているアニメの『スポンジ・ボブ』に出てくる「バーナクル・ボーイ」でしょうね。御年 68 歳の「正義の味方」です。「マーメイドマン」と行動をともにしています。映画のバットマンとロビンのように、です。主人公のボブは海綿。仲良しはヒトデのバトリック。そして、隣人にタコのイカルドがいます。タコなのにどうしてイカかというと、英語では、イカルドはスキッドワード、つまりイカ(スキッド)に向かう(トワード)で、タコはイカに進化する途上という意味だから、と作者のステファン・ヒーレンバーグさんが言っていました。もちろんアメリカン・ジョークですよ。(イカルドは「イカにナルド(なるよ)」ということでしょうか。)

船乗りのバーナクル・ビルは、ポパイの恋敵のブルートの原型となりました。もともとは、サンフランシスコに実際にいた船乗りがモデルになっているそうです。「バーナクル・ビル」という歌も幾種類かありますよ。恋人が、丸顔でショートのカリーヘアが可愛いベティ・ブーブです。1941年に「船乗りのバーナクル・ビル」という映画にもなりました。真珠湾攻撃の日ですね。ドレミファが禁止され、ハニホヘトと歌うように、とされた年でもあります。でもドレミファはイタリア語で、つまり同盟国の言葉だったんですけれどね。また、その年、日本海洋学会が創立されています。

なんちゃって  
富嶽三景  
みうら版





(注1)

記念艦三笠：三笠の名前は、奈良の三笠山からだそうです。「天の原 ふりさけ見れば 春日なる  
三笠の山にいでし 月かも」の三笠山です。今では若草山と呼ばれているところです。  
あらぶる軍艦に雅な名前ですね。

(注2)

世界三大提督：東郷平八郎。アメリカ独立戦争の英雄であるジョン・ポール・ジョーンズ。そして、  
トラファルガーの海戦でフランス・スペインの連合艦隊を破った、イギリス海軍提督  
のホレーショ・ネルソンです。

世界三大海戦：日本海海戦(1905)。イギリスが勝利を収めたトラファルガーの海戦(1805)。レバント  
の海戦(1571)。ギリシャのイオニア海にてオスマン帝国と教皇・スペイン・ヴェネ  
ツィアの連合艦隊が戦い、カトリック教国の大勝利に終わりました。

(注3)

ノット(knot)：1時間に1海里すすむ速さ。1海里は1852mです。時速2キロ弱ということでしょう  
か。漢字では節が使われるそうです。

参考にした本：

倉谷うらら『フジツボ 魅惑の足まねき』（2009 岩波書店）

『図解 世界の「三大」なんでも事典』（2007 三笠書房）

『江戸後期諸国産物集成 第15巻』（1996 科学書院）

Robert Gurney, *Larvae of Decapod Crustacea*, (1942, Ray Society)

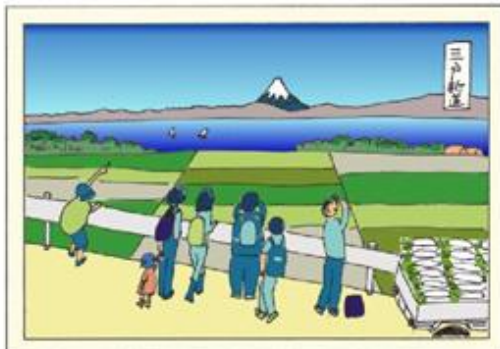
### 小倉さんの干潟愛コーナー

フジツボは船底について歴史まで変えるそうですね。

フジツボは船底についたり、発電所の取水・放水設備についたり有害生物として知られていますが、最近では工学や医学の分野で注目の水中接着物質の研究では活躍しています。

また、今回の話の中の”梅園介譜”にあるクジラと共に暮らすオニフジツボは殻径が10センチくらいにもなる大型のフジツボで、江戸時代肥前国で書かれた捕鯨の本”勇魚取絵詞”の”鯨肉調味方”にはオニフジツボを”セ”として食べ方が書いてあります。北の海に暮らすミネフジツボも5センチくらいになる大きなフジツボで青森県陸奥湾などでは養殖が行われています。東北地方の民宿などでは食べられるようです。

小網代でも湾口近くには大きなアカフジツボが見られますので試食してみてくださいはどうか。





## スタッフコラム

### ◆ 特定外来生物指定のアライグマ

2013. 4.28

20年も昔、家の近くでリードを付けた犬と散歩している人と出会った時のことである。タヌキのようなイヌで、どうもおかしい腹這いをして歩いているような感じがする。珍しいので訊ねたところ、生後3ヶ月のアライグマの子供ですという。私と初めての出会いとなったのである。

液剤ソープのコマーシャルに使われ、手を洗う可愛い姿を幾度か画面で見た記憶がある。ある地域の清潔キャンペーンで「手を洗いグマ」はアライグマを想定している。動物園のヌイグルミ、また郵便局ではアニメ切手として販売中である。

1980年代、テレビアニメの「アライグマ・ラスカル」が子供たちの人気を集めていた。スターリング・ノース少年が森中で、アライグマの赤ちゃんを見つけその後の交流を描いた心暖まる物語である。この少年は実在するといわれ、子供たちのアライグマに対する優しいイメージはこの時のものといわれる。

それが1990年代には、「絶対に飼育してはいけない気の荒いアライグマ」という冊子も発刊されるようになってきた。



ペットブームに便乗して、毎春になると北米から輸入されてきたようである。そしてペットショップへ展示され、約10万円前後で簡単に購入できたといわれる。あるペットショップでは、店頭へ恐ろしい毒グモや毒ヘビ、小型のワニ等の爬虫類や1000円の値札の付いたハマガニも見ている。ショップ側も、餌はお菓子やドックフードを与えればよいという程度の知識でよく知らなかったのである。

生後2、3ヶ月のアライグマはじつに可愛らしくハムスターや仔ウサギ位の大きさである。飼い主たちはイヌやネコと同じように部屋で放し飼いし、やがては添い寝もできるものと信じて次々と購入するようになったのである。

原産地の北米では、水辺に近い森や林に生息し樹上の洞等で2～7仔を出産、育児をするという。幼い時は哺乳ビンでミルクを与えると、両手でビンを抱え飲む可愛い仕草といったそれはイヌやネコには真似のできないものである。

それが生後半年に成長してくると、鋭い爪や歯で飼い主は生傷が絶えず頑丈な金カゴへ収容しないと屋内での飼育は無理となる。また、部屋内で放し飼いすると木登りも巧みでサルのような手足を使い柱へ伝い天井上部へ登ってしまい下りてこない。

野生本能が牙を剥き始め活動時間は昼間よりも夜間の方が活発で、ヒトとの共同生活は絶対に無理となる。トイレの躰けなども不可能で夢のまた夢となる。

やがて家庭内では持て余して、ペットショップや動物園等へ持ち込み相談しても相手にしてもらえない。その凶暴性や餌の与え方等飼育の難しさから、あげくの果ては遂に野山や公園等へ放置し捨てられ、また逃亡されたものとおもわれる。外来種の熱帯魚を、川や池等へリリースするのと同じことである。今では、寒さにも強く北海道から九州全域で生息が確認されている。

手足が器用で檻カゴ中から扉を開けて逃亡した。また持ち運ぶ途中、中からチョッカイされて取り落とし扉が開いて逃げられた。雑食性で昆虫・カニを始め野菜やスイカを食べる、池のコイを捕らえる等各地から多くの苦情が寄せられている。三浦のある所で捕獲されたアライグマを見ているが、身の不運を嘆いてふて寝をしていた。

昭和の早い時期から輸入されたようで、全国で野生化が初めて確認されたのは1962年(昭和37年)愛知県犬山市。神奈川県下では、1988年鎌倉市扇ヶ谷戸で確認されたのが初めてといわれる。三浦市では1992年。県では2006年に5年間の捕獲計画を発表、更に2011年第2次防除実施計画を開始している。

過去最大の年間捕獲記録を見ると横須賀市475匹、三浦市147匹である。県では専門業者へ手配して檻ワナを10ヶ所に設置したところ、6匹を捕獲し他にイタチとタヌキが入っていた。餌はドックフードやキャラメルコーン等甘いものが効果的であるという。

夜行性なので昼中はその姿を見ることは難しいが、ぬかるみの山道や潮の引いた干潟等で数多く残された足跡からその健在活動ぶりが確認できる。

「アライグマ」は侵略的特定外来生物として恐れられ、各地の自然環境へ順応し極めて高い生存能力がある。2005年には特定外来生物として、国がアライグマを始めカミツキガメ、ブルーギル等105種を指定した。輸入や移動、野外放置が禁止となり、違反者に対しては懲役罰金刑を科すという極めて厳しいものとなっている。

祖父川精治

## ◆ 神奈川県のイベント紹介

### 地球環境イベント「アジェンダの日 2013」

5月25(土)、26日(日) 県庁横の日本大道りで大イベント開催

主催:かながわ地球環境保全推進会議

担当は、かながわ地球環境保全推進会議事務局

(神奈川県環境計画地球温暖化対策グループ)

TEL:045-210-4053 FAX:045-210-8952

## カニグッズ(5)

### ◆ アカテガニ募金のかにグッズ

「小網代の森を神奈川県が基金として持っている「かながわトラストみどり基金で保全して欲しい」は、会の前身である小網代の森を守る会1990年発足当時からの願いでした。そこで、会ではみどり基金への寄付を募るためのオリジナルグッズを製造依頼、販売して、差益を、いや差益どころか、そのまんま、アカテガニ募金<sup>\*1</sup>という名称で積み立てていました。年間30万円を目標にしていたので、そのうちのわずかでも、みどり基金として、寄付されていきました。

そこで今回はそんなグッズを紹介します。



No.6 知り合いの知り合いの伝手で、作ってもらった赤いフェルトのマスコット 目玉が目玉



No.7 県サポのともしびショップで見て、作業所に頼んで作ってもらった。ビーズにフェルトの足、色がいろいろ。何度も制作をお願いした。



No.8 三浦のきくな作業所で作って貰った袋。アカテガニのステンシルが可愛い。結構評判がよかった。今も使っているスタッフがいる。



No.9 同じきくな作業所で作って貰った。テラコッタ粘土にカニが可愛く描いてある。うらに磁石が貼り付けてある。



No.10 今は陶芸工房Gを主宰されているK先生の若い頃に、型を作って貰い、三崎の作業所で指導して焼いてもらった。かにのマグネット



No.11 Kさんが始めて小学校の子供を小網代の森につれてきた後で、子供が描いた絵をシールにして貰った。ちなみにお母さんはその時、カワセミの絵を描いてシールにしてくれた。

小網代の森の象徴であるアカテガニを中心とした数々の種類のカニたち。アカテガニ広場でおこなわれるカニパトロール<sup>\*2</sup>の時の森の応援金などを募るため、いろいろな形で、グッズになっています。今も森へ来たり、カニを観察に来たりする人たちに「私たちを守って」と訴えたくて、新しく作られています。次回はそんな新しくできたかにグッズの紹介をします。

カニグッズ収集家 ときにはカニグッズ作家 宮本

\*1 現在「アカテガニ募金」は NPO 法人小網代野外活動調整会議が預かり、トラスト財団に寄付をしています。

\*2 現在カニパトロールは NPO 法人小網代野外活動調整会議が実施しています。



## 小網代の森と干潟を守る会の活動

- 2/23 スタッフ会議(引橋 総合福祉センター)
- 2/24 公益社団法人日本ナショナルトラスト協会全国大会参加
- 3/23 通信127号印刷(横須賀市市民活動サポートセンター)
- 3/23 はまかぜ新聞に 4/29 自然観察&クリーンの広告をリリース
- 4/29 第114回自然観察&クリーン「小網代の春を感じよう」
- 4/29 スタッフ会議(引橋 総合福祉センター)

## ご寄付ありがとうございます

会の活動費 矢部和弘

森の応援金 福井すみ代 野内真理子 大川須美 小倉雅実 仲澤イネ子 杉崎泰章  
竹内晶子 高橋伸和 浪本晴美 別府史朗 松原あかね 山本述子 宮本美織  
橋 美千代 鈴木清市 鈴木カヲル

以上の方からご寄付をいただきました、ありがとうございました

## 小網代の森と干潟を守る会ホームページのご紹介

小網代の森と干潟を守る会の公式ホームページ、今回はサイトの入口、トップページをご紹介します。

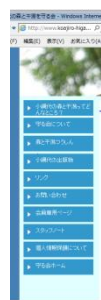


トップページの上部です。ページの右側には小網代の森に関する注意やお知らせ、NPO法人小網代野外活動調整会議の紹介とリンクがあります。下の方には最新の出版物の紹介や、更新情報、潮位表などがあります。

<http://www.koajiro-higata.com>

google や yahoo で、「こあじろひがた」を検索するとすぐに見つかります

- トップページの左側のボタンは上から
  - ・小網代の森と干潟ってどんなところ
  - ・守る会について
  - ・森と干潟つうしん
  - ・小網代の出版物
  - ・リンク
  - ・お問い合わせ
  - ・会員専用ページ
- Etc.へのリンクになっています。



森と干潟つうしんのボタンをクリックすると

守る会についてのボタンをクリックすると



つうしんを読んだり、会員専用ページを開いたりなど、ホームページの主なコンテンツを見ることができます。



会の目的や沿革など守る会の情報が・・・

## 第 115 回自然観察 & クリーンのお知らせ

主催: 小網代の森と干潟を守る会 共催: NPO 法人小網代野外活動調整会議

### ◆小網代干潟のカニと貝 ヤドカリもね!

今年是小網代のサクラもフジの花も少し早く満開となりました。もう干潟ではマメコブシガニが食事やお嫁さん探しに忙しく動き回っているのが見られます。干潟のカニたちも忙しい季節を迎えています。元気いっぱい干潟の生き物を見てリフレッシュしてはいかがでしょうか。

日 時: 2013 年 6 月 15 日(土) \*小雨決行

集 合: 10:00 京浜急行三崎口駅改札前

(トイレがありませんので必ず駅で済ませてください)

解 散: 14:00 ころ現地解散

講 師: 小倉雅實氏

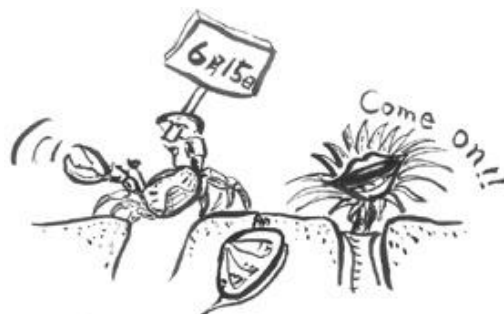
持ち物: 長靴、お弁当、飲み物、雨具、小さなお子さまは着替えもあると安心です。そのほか図鑑や虫眼鏡、双眼鏡などの観察用具もあるとより一層楽しめます

申 込: 当日現地で受け付けします

参加費: 無料

※ ごみ拾いボランティアもいたしますので、汚れても良い服装でご参加ください。

お問い合わせ: 046-889-0067 (仲澤)



## NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお知らせとお願い

小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

### ■ トラスト緑地保全支援会員 & 小網代応援団募集

#### ◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ (<http://ktm.or.jp>) から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。通常のトラスト会費(大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円)の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。小網代の森をよろしく願います。

#### ◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議 (電話: 045-540-8320 E-mail: [koajiro@koajiro.org](mailto:koajiro@koajiro.org)) までお問い合わせください。

「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

小網代 森と干潟つうしん NO.128 2013 年 5 月 18 日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: [info@koajiro-higata.com](mailto:info@koajiro-higata.com)

電話 046-889-0067 (副代表 仲澤)

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000 (7 月~6 月 入会金不要)

郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会

\* 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末(6 月末)までお届けしております